

# 2012年3月期 第3四半期決算報告

2012年2月13日  
第一生命保険株式会社

---

- それでは、第一生命グループの2012年3月期第3四半期の決算報告を行います。
- いつものように、私から資料に沿って決算内容についてご説明させていただきます、残りの時間を質疑応答とさせていただきます。
- 1ページをご覧ください。

■ 第一生命グループ各社の営業業績は好調を維持

- ・第一生命、第一フロンティア生命のいずれも新契約年換算保険料が対前年同期比プラス成長
- ・海外子会社の保険販売も好調を維持

■ 厳しい運用環境、税制変更に伴う利益下押しにより、当期純利益は前年同期比マイナス

- ・厳しい運用環境を受けて有価証券評価損が高水準
- ・法人税制改正に伴う繰延税金資産の取り崩しの影響で当期純利益は前年同期比19%減の127億円

■ 健全性の強化に向けた取組が着実に進捗

- ・厳しい運用環境下でも、国内株式残高の削減、超長期国債の積み増し策は着実に進捗
- ・ソルベンシー・マージン比率は前期末レベルを維持し、有価証券含み益も増加
- ・内部留保の一部を取り崩すも、追加責任準備金を計画通り繰入れ自己資本水準は着実に向上

■ 今回の決算のポイントです。

■ まず、第一生命グループ各社の営業業績は、第2四半期までと同様に、堅調に推移しました。第一生命では新商品を中心に営業職員チャネルの販売が堅調に推移したのに加え、銀行窓販向けの第一フロンティア生命では今年度投入した定額年金が好調で、両社ともに保険料収入、新契約年換算保険料は前年同期比増収となりました。オーストラリアやベトナムの海外保険子会社でも、トップラインは好調に推移しています。

■ 一方、厳しい運用環境が続いたことで、第一生命では、第3四半期累計で上半期並みの有価証券評価損を計上し、第一フロンティア生命では最低保証に係る責任準備金の繰入額が引き続き高水準となりました。また、法人税率改正に伴い、第一生命で繰延税金資産の取り崩しを行ないましたので、これらの結果、連結当期純利益は前年同期比マイナスの127億円となりました。

■ 但し、こうした厳しい環境下においても、健全性の強化に向けた取組を着実に進めています。国内株式残高の削減、超長期国債の積み増しは計画に対して順調に進んでおり、ソルベンシー・マージン比率も概ね昨年度末の水準を維持しています。なお、法人税制改正等に伴い、危険準備金と価格変動準備金の一部を取り崩しましたが、追加責任準備金は計画通りに繰り入れており、自己資本の水準は着実に向上しています。健全性強化については、後ほどご説明します。

■ 2ページをご覧ください。

## 第一生命

## 連結主要業績

- 第一生命グループ各社の保険販売が堅調だったことを受けて、経常収益は前年同期比6%増
- 厳しい運用環境に加え、法人税制改正に伴う一時的な費用が発生したため、当期純利益は同19%減

	(億円)				<参考>	
	11/3期 3Q累計	12/3期 3Q累計(a)	前年同期比		12/3期 業績予想(b)	進捗率(a/b)
経常収益	34,016	35,968	+1,952	+6%	47,800	75%
第一生命単体	31,877	32,573	+696	+2%	42,900	76%
経常利益	1,062	1,848	+785	+74%	2,100	88%
第一生命単体	1,138	1,996	+857	+75%	2,300	87%
当期純利益	156	127	△29	△19%	200	64%
第一生命単体	224	63	△160	△72%	170	38%

2

- 連結主要業績はご覧のとおりです。
- 連結経常収益は、保険販売の好調を背景に前年同期比6%増の3兆5,968億円となりました。また、厳しい運用環境が続く中、法人税制改正に伴う会計処理の影響も加わり、危険準備金を取り崩しました。このため、連結経常利益は、同74%増の1,848億円となる一方で、当期純利益は前期を下回りました。
- なお、減税に伴う会計処理により、一時的にマイナスの影響が出ておりますが、1月31日のプレスリリースにてお知らせの通り、減税はエンベディッドバリューにはプラスに働きますし、株主配当予想も変更していません。

**第一生命**

**連結損益計算書・連結貸借対照表(要約)**

**連結損益計算書(要約)<sup>(1)</sup>**

	11/3期 3Q累計	12/3期 3Q累計	増減
経常収益	34,016	35,968	+1,952
保険料等収入	25,085	26,625	+1,539
資産運用収益	6,801	7,141	+340
うち利息・配当金等収入	5,012	5,056	+44
うち有価証券売却益	1,609	2,018	+408
うち金融派生商品収益	149	-	△149
その他経常収益	2,129	2,201	+72
経常費用	32,953	34,120	+1,166
うち保険金等支払金	19,262	19,628	+365
うち責任準備金等繰入額	4,287	3,758	△529
うち資産運用費用	2,935	4,005	+1,070
うち有価証券売却損	879	1,064	+185
うち有価証券評価損	691	830	+138
うち金融派生商品費用	-	32	+32
うち特別勘定資産運用損	639	1,213	+573
うち事業費	3,182	3,393	+210
経常利益	1,062	1,848	+785
特別利益	43	288	+245
特別損失	213	308	+95
契約者配当準備金繰入額	600	522	△77
税金等調整前四半期純利益	292	1,305	+1,013
法人税等合計	144	1,202	+1,057
少数株主利益(△は損失)	△9	△24	△14
四半期純利益	156	127	△29

**連結貸借対照表(要約)**

(億円)

	11/3末	11/12末	増減
資産の部合計	322,978	326,442	+3,464
うち現預金・コール	5,019	4,949	△70
うち買入金銭債権	2,911	2,902	△8
うち有価証券	255,977	260,714	+4,736
うち貸付金	36,279	34,360	△1,918
うち有形固定資産	12,961	12,603	△357
うち繰延税金資産	4,772	4,050	△721
負債の部合計	315,660	319,536	+3,876
うち保険契約準備金	296,419	301,575	+5,155
うち責任準備金	290,394	295,135	+4,741
うち退職給付引当金	4,200	4,395	+194
うち価格変動準備金	805	757	△48
純資産の部合計	7,318	6,905	△412
うち株主資本合計	5,489	5,641	+152
うちその他の包括利益累計額合計	1,711	1,168	△543
うちその他有価証券評価差額金	2,388	2,016	△372
うち土地再評価差額金	△651	△646	+5

(1) 特別勘定資産運用損は、責任準備金の戻入れで相殺されるため、経常利益に影響するものではありません

■ 3ページは連結の損益計算書と貸借対照表の要約版ですので後ほどご覧頂ければと思います。

■ 4ページをご覧ください。

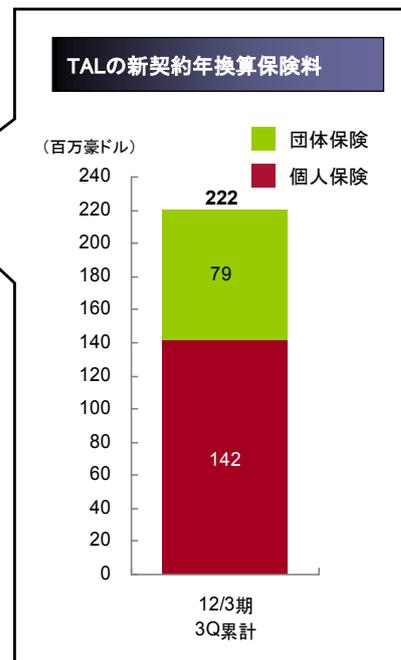
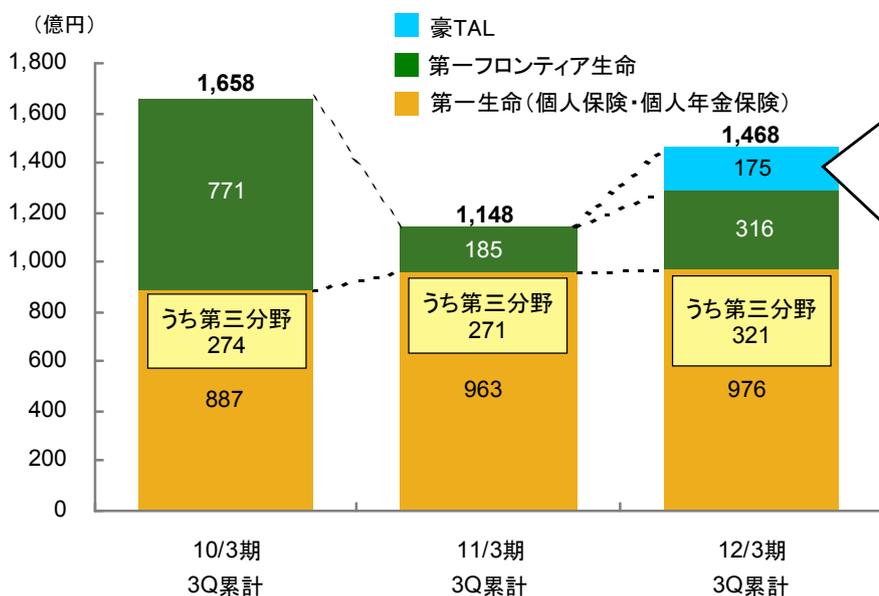
	【第一生命】			【第一フロンティア生命】			【豪TAL】 <sup>(1)</sup>			【連結】		
	(億円)			(億円)			(百万豪ドル)			(億円)		
	11/3期 3Q累計	12/3期 3Q累計	前年同期比	11/3期 3Q累計	12/3期 3Q累計	前年同期比	11/3期 3Q累計	12/3期 3Q累計	前年同期比	11/3期 3Q累計	12/3期 3Q累計	前年同期比
経常収益	31,877	32,573	+696 +2%	2,083	2,558	+475 +23%	1,240	1,543	+302 +24%	34,016	35,968	+1,952 +6%
保険料等収入	23,005	23,270	+264 +1%	2,051	2,429	+377 +18%	988	1,217	+229 +23%	25,085	26,625	+1,539 +6%
資産運用収益	6,791	7,074	+282 +4%	32	127	+95 +298%	72	18	△ 54 △74%	6,801	7,141	+340 +5%
経常費用	30,738	30,577	△ 161 △1%	2,181	2,800	+619 +28%	1,126	1,411	+285 +25%	32,953	34,120	+1,166 +4%
保険金等支払金	18,646	18,343	△ 303 △2%	607	688	+80 +13%	661	826	+165 +25%	19,262	19,628	+365 +2%
責任準備金等繰入額	3,021	2,318	△ 702 △23%	1,258	1,636	+377 +30%	118	134	+16 +14%	4,287	3,758	△ 529 △12%
資産運用費用	2,713	3,663	+949 +35%	229	362	+133 +58%	15	61	+45 +288%	2,935	4,005	+1,070 +36%
事業費	3,109	3,005	△ 104 △3%	79	106	+26 +33%	284	331	+47 +17%	3,182	3,393	+210 +7%
経常損失	1,138	1,996	+857 +75%	△ 97	△ 241	△ 144 --	114	131	+17 +15%	1,062	1,848	+785 +74%
特別利益	43	59	+15 +35%	3	--	△ 3 --	--	--	-- --	43	288	+245 +562%
特別損失	216	305	+88 +41%	0	1	+1 +285%	--	2	+2 --	213	308	+95 +44%
少数株主損失	--	--	-- --	--	--	-- --	--	--	-- --	9	24	+14 +158%
四半期純損益	224	63	△ 160 △72%	△ 94	△ 243	△ 148 --	64	86	+22 +35%	156	127	△ 29 △19%

(1) 11/3期において、Tower Australia Group Limited(以下、Tower社)は当社が28.9%の株式を保有する持分法適用関連会社でした。当社は、2011年5月11日付で当社未保有のTower社株式の全株取得を行いました。2011年6月1日付でTower社は会社名をTAL Limitedに変更しています。なお、表中でTALと表示している12/3期3Q累計の数値は、連結対象の豪持株会社に係る数値です。また、11/3期3Q累計の数値は、試算値です

4

- グループ各社の決算についてコメントします。
- 第一生命単体については、医療保険の「メディカルエール」、一時払終身の「グランロード」を中心に販売が引き続き好調で、保険料等収入は前年同期比プラスで推移するとともに、事業費効率の改善も続けました。このため、基礎利益も前年同期を超える水準に達しました。
- ただし、内外の厳しい運用環境を背景に、上半期と同水準の有価証券評価損を第3四半期累計期間でも計上した他、法人税制改正に伴う会計処理も加わり、危険準備金等を取り崩しました。このため、経常利益は1,996億円と前年同期比で大きく増加する一方で、純利益は63億円と前年同期比マイナスとなりました。
- 第一フロンティア生命では、定額年金の販売が好調で経常収益は前年同期比23%増を達成しましたが、厳しい運用環境を反映し、過去に販売した変額年金の最低保証に係る責任準備金繰入れが引き続き高水準となった結果、経常損失が241億円、当期純損失額が243億円とそれぞれ前年同期比で拡大しました。
- TAL社も保険料収入が高水準の伸びを続けています。また、第1四半期、第2四半期において、解約や保険金支払いが高めに推移しているとお伝えしましたが、第3四半期では改善も見られ、経常利益131百万豪ドル、当期利益86百万豪ドルといずれも前年同期比プラスとなりました。
- 5ページをご覧ください。

第一生命グループの新契約年換算保険料

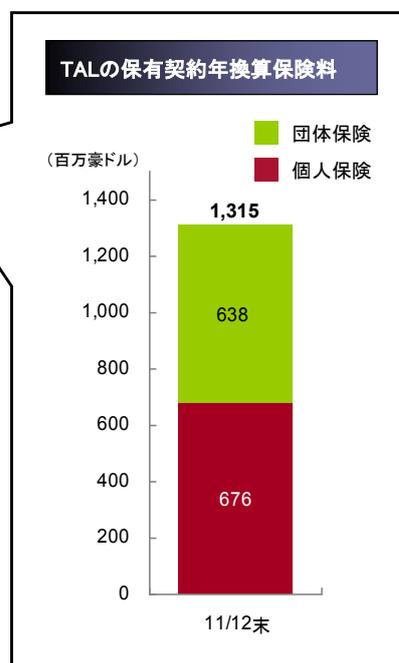
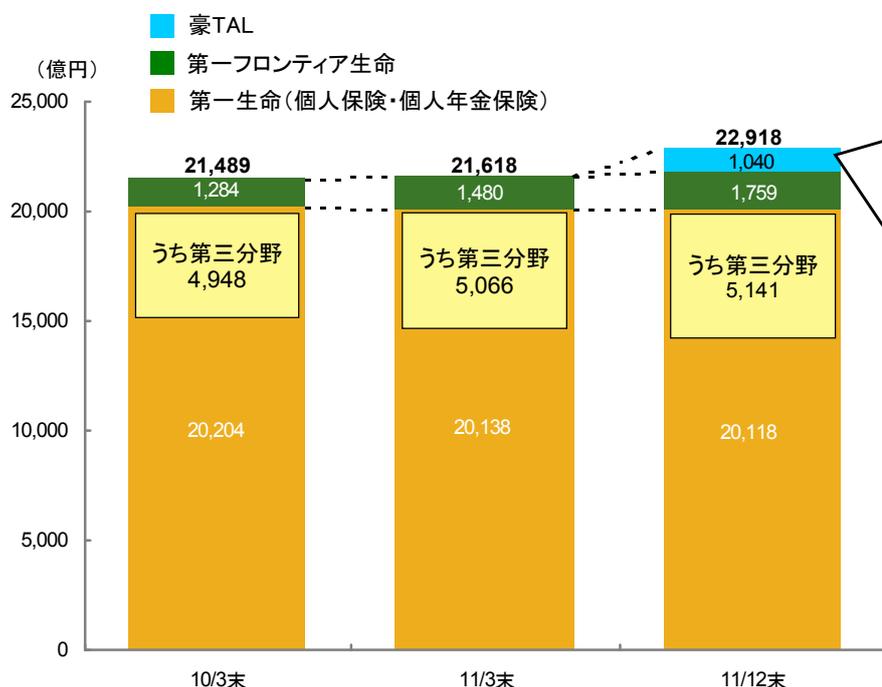


■次に新契約の動向についてご説明します。

■グラフは第一生命グループの新契約年換算保険料について示しています。第一生命単体の個人保険分野では、「メディカルエール」を筆頭に、「順風ライフ」や「グランロード」などの販売が堅調に推移し、新契約年換算保険料は976億円と、前年同期比1.4%の増加となりました。また、第一フロンティア生命も定額年金の新商品投入により、同70.7%増の316億円となりました。昨年5月に完全子会社化しましたTAL社については、個人向けの保障性商品が好調に推移しています。以上の結果、第一生命グループ全体の新契約年換算保険料は1,468億円となりました。

■6ページをご覧ください。

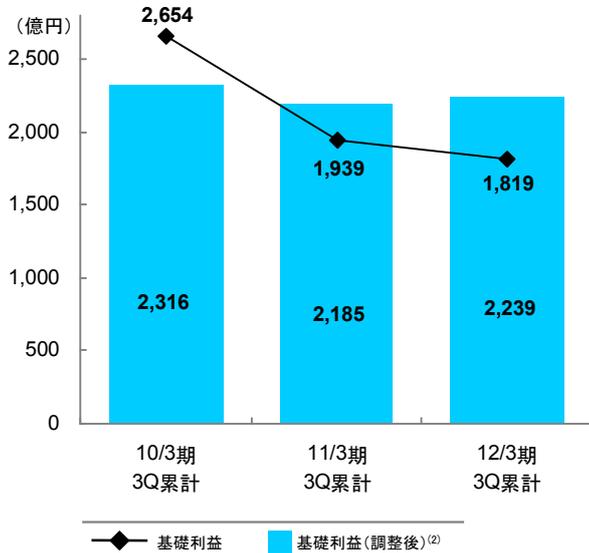
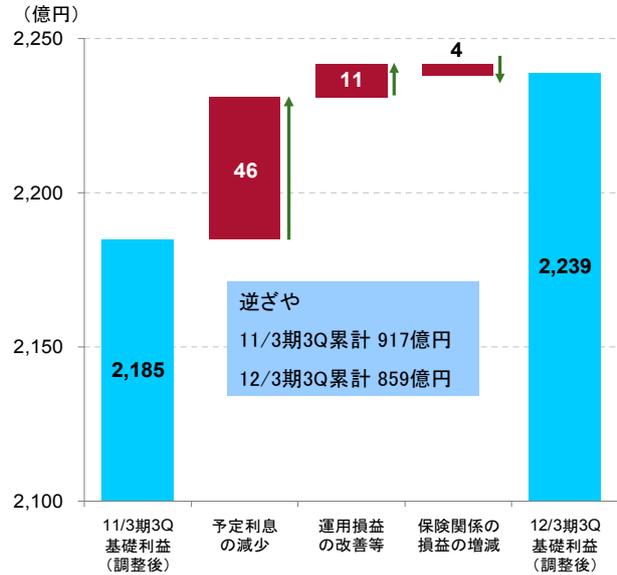
第一生命グループの保有契約年換算保険料



■次に保有契約の動向についてご説明します。

■第一生命が提供する保険商品のうち、第三分野の保有契約年換算保険料は前年度末比1.5%増加し、貯蓄性商品を扱う第一フロンティア生命の保有契約年換算保険料は同18.9%増加しました。これにTALの保有契約年換算保険料を加え、第一生命グループ全体として見た保有契約年換算保険料は、前年度末から6.0%増加し2兆2,918億円となりました。内外の成長分野がバランスよく貢献し、保有契約年換算保険料の成長を支えていることがご確認いただけると思います。

■次に7ページをご覧ください。

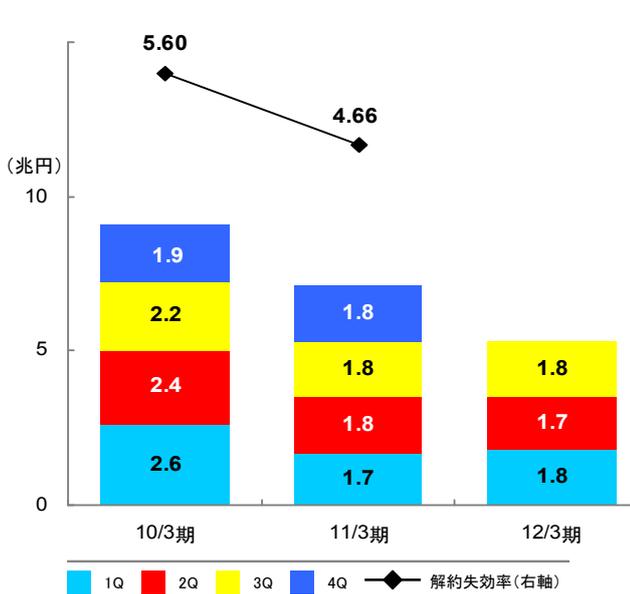
基礎利益<sup>(1)</sup>基礎利益(調整後)の変動要因<sup>(1)(2)</sup>

(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

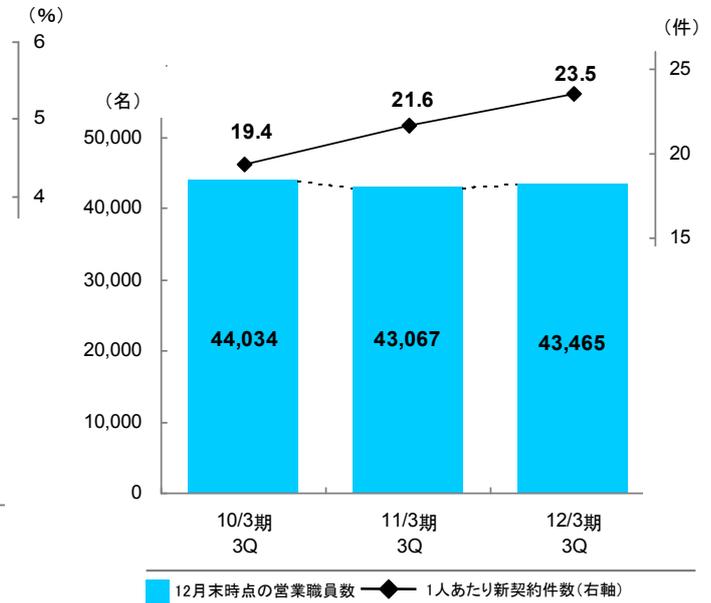
(2) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 + 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入額

- 次に基礎利益についてご説明します。左のグラフの折れ線で示しています第一生命と第一フロンティア生命合算の基礎利益は、第一フロンティア生命の変額年金の最低保証に係る責任準備金繰入れの影響が大きく、前年同期比6.2%減の1,819億円となりましたが、この影響を除いた調整後の基礎利益は同2.5%増の2,239億円となりました。
- 右のグラフは調整後の基礎利益をベースに前年同期からの変動要因を分解したものです。追加責任準備金の積み立て等による予定利息の負担軽減が46億円、運用損益の改善等で11億円の増益要因となっております。保険関係損益4億円のマイナスについては、第一生命の改善効果39億円に対して、第一フロンティア生命の悪化が43億円でした。
- この主な要因についてご説明しますと、第一フロンティア生命では、一時払変額年金について、新契約獲得費用を平準化するため、再保険を利用し、契約時に再保険収入を受け入れ、その後には再保険料の支払いを定期的に計上する仕組みを活用しています。保険商品の販売が一定のペースで推移している場合は見えにくいのですが、現在のように、大幅な販売増とその反動減が発生している状況においては、再保険収支の悪化が基礎利益を圧迫することになります。
- 次に8ページをご覧ください。

解約失効高(個人保険・個人年金保険)



営業職員数および生産性<sup>(1)</sup>



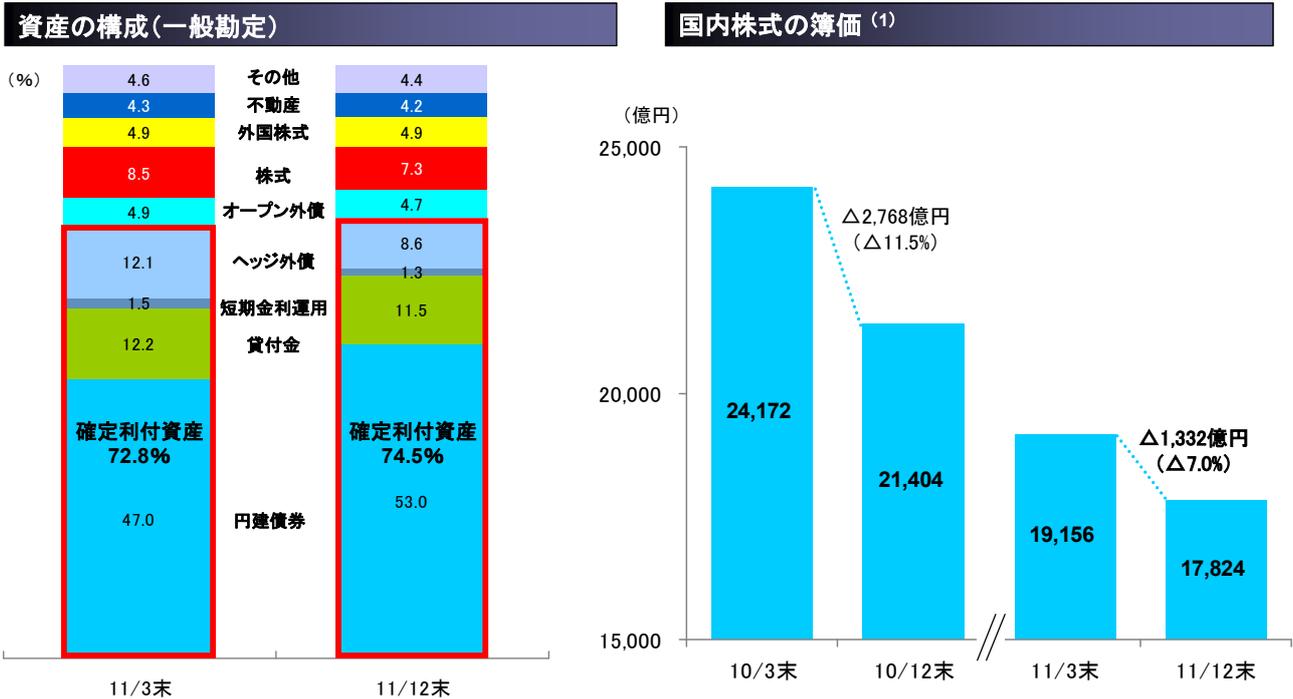
(1) 営業職員については、第一生命と委任契約を締結しかつ生命保険募集人登録をしている者のうち、その他補助的業務に従事する者を除いております

■左のグラフは第一生命単体の解約失効高ならびに解約失効率の状況を示しています。第3四半期累計の解約失効高は前年同期比2.1%減となり、株式会社化に伴い、ほぼ全てのご契約者様とコンタクトができた昨年と同じ低いレベルを維持できています。

■右のグラフは営業職員数とその生産性を示しています。営業職員数は、安定的に4万人台をキープしつつ、新商品の投入もあり生産性は着実に伸びています。

■9ページをご覧ください。

一般勘定資産運用の状況(1)



(1) 国内株式のうち時価のあるもの(子会社・関連会社株式、非上場国内株式は除く)

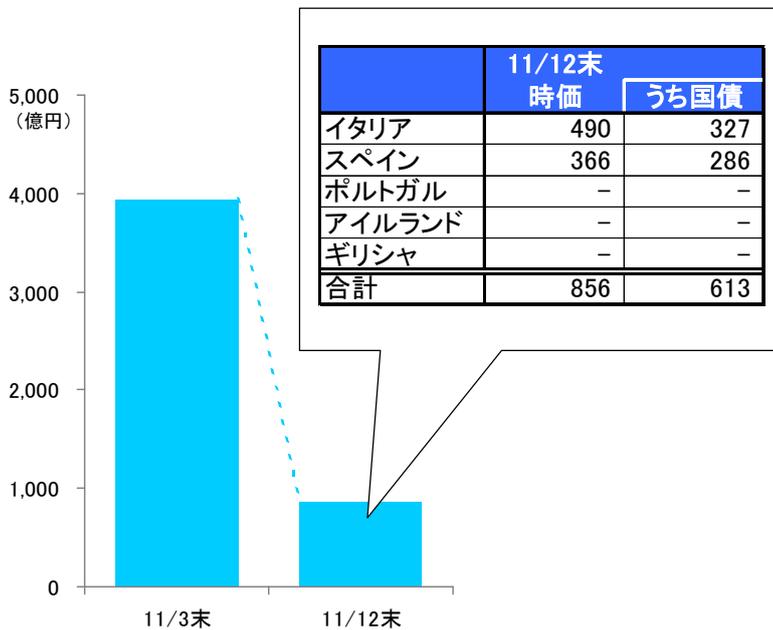
■次に資産運用の状況についてご説明します。

■左のグラフは第一生命単体の一般勘定資産の構成比を示しています。ALMと厳格なリスク管理に基づいて、確定利付資産中心の運用を継続していますが、運用環境を考慮し、昨年度末に比べ、ヘッジ外債を削減し円建債券を増やしています。

■国内株式の保有比率は時価ベースで一般勘定資産の7.3%まで低下しました。国内株式の削減については、厳しい市場環境ではあるものの、計画に対して順調に削減を進めています。例年通り、売却のオペレーションは期末に向けて本格化させて行く予定です。

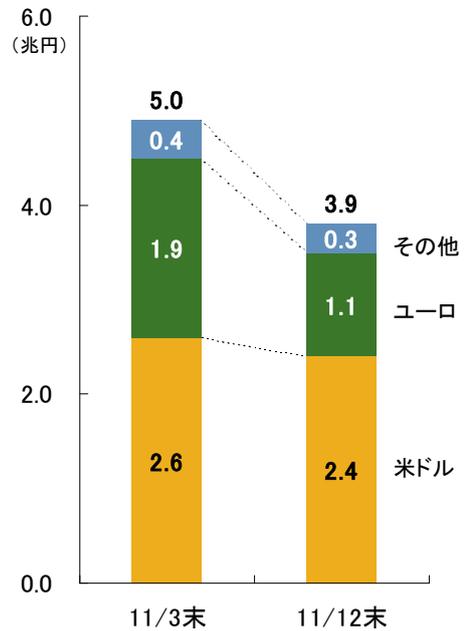
■10ページをご覧ください。

ユーロ圏一部諸国への投資額(時価ベース)<sup>(1)</sup>



(1) 外部委託運用を除く  
 (2) 貸借対照表価額(円建の外債を除く)

外債の通貨別残高<sup>(2)</sup>



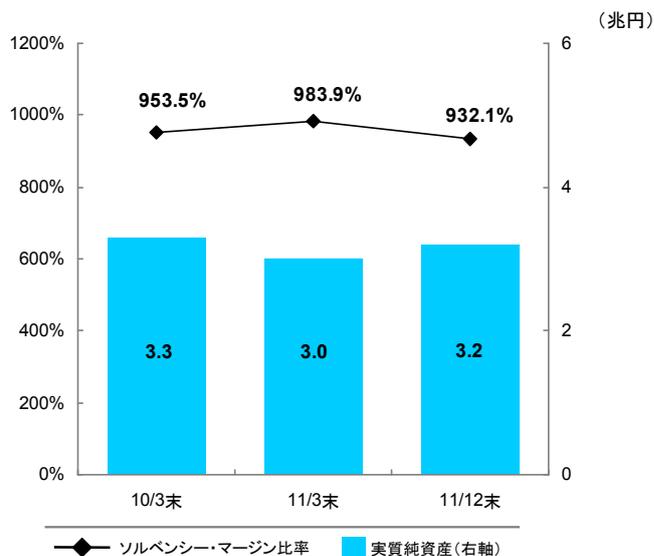
- ユーロ圏一部諸国のエクスポージャーを示しました。11月上旬の中間決算発表時にお伝えした通り、第3四半期で更に残高を落としています。
- 右の棒グラフは外債の通貨別残高の推移を示しています。昨年度末に比べると、ユーロ建て残高が大きく減少していることが確認できると思います。
- このように、ユーロ建てエクスポージャーはドイツなどの信用力の高い国債が中心となっており、ユーロ圏一部諸国に対するエクスポージャーはかなり限定的になっています。当該地域については引き続き、様々な点を考慮した上で残高をコントロールしていきます。
- 11ページをご覧ください。

含み損益(一般勘定)

(億円)

	11/3末	11/12末	増減
有価証券	6,141	8,475	+2,334
国内債券	3,838	8,299	+4,460
国内株式	3,056	792	△2,264
外国証券	△804	△657	+147
不動産	205	△77	△282
その他共計	6,392	8,413	+2,021

ソルベンシー・マージン比率および実質純資産額



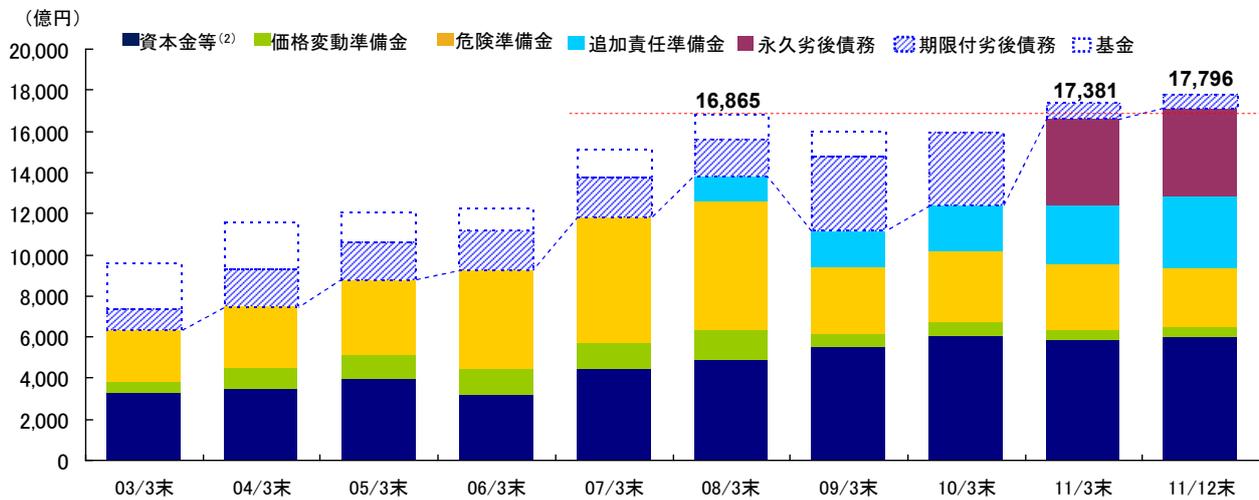
＜参考＞ 2012年3月期末より導入される新基準に基づくソルベンシー・マージン比率

547.7% (11/3末)	⇒	516.4% (11/12末)
----------------	---	-----------------

- 次に第一生命単体の健全性についてご説明します。
- 左の表に示している含み損益は、市場環境の悪化により国内株式の含み益が減少しましたが、一方で金利低下に伴う国内債券の含み益増加が大きく寄与して前年度末に比べて2,021億円増加しました。
- 右の折れ線グラフで示したソルベンシーマージン比率については、国内株式の圧縮を進めましたが、内部留保の一部を取り崩した影響で、新基準において、516.4%と前年度末比で31.3%ポイント低下しました。但し、十分に健全な水準は維持しています。
- 12ページをご覧ください。

自己資本の構成<sup>(1)</sup>

■ 内部留保を取り崩したものの、自己資本の水準は向上。



根拠資料：当社作成資料

(1) 単体ベース、税後換算

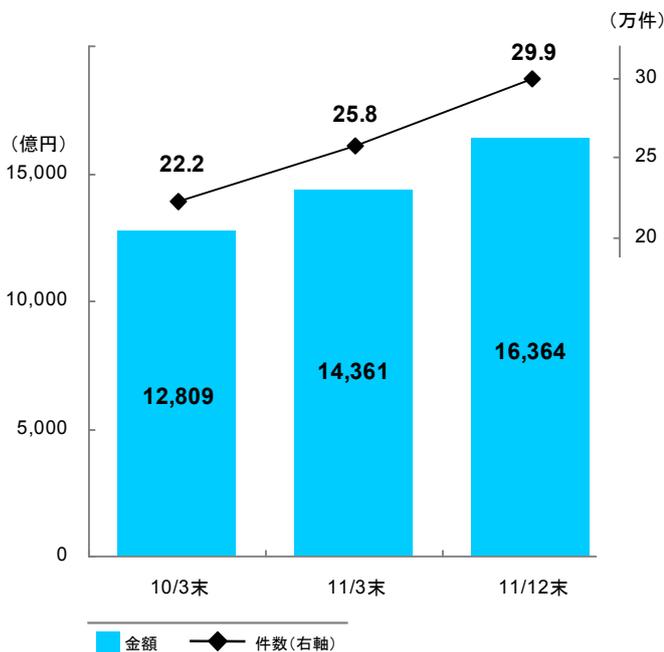
(2) 「資本金等」は、純資産の部合計から基金、評価換算差額等、社外流出予定額等を控除

■ 第一生命単体での資本水準の推移をグラフで示しています。ここでお示しているのは、価格変動準備金や危険準備金、追加責任準備金など、負債性の内部留保やハイブリッド資本等を含めたものです。

■ リーマンショック後も、金融市場は断続的に強いストレスを受けておりますが、第一生命は追加責任準備金など内部留保を着実に積み上げ、ハイブリッド資本もあわせて資本力の強化を続けてまいりました。第3四半期は内部留保の一部を取り崩しましたが、それでもリーマンショック直前の額を上回る資本水準を達成していることを御確認下さい。

■ 13ページをご覧ください。

保有契約高



収支の状況

	(億円)	
	11/3期 3Q累計	12/3期 3Q累計
経常収益	2,083	2,558
うち保険料等収入	2,051	2,429
うち変額商品	1,526	495
うち定額商品	184	1,620
うち資産運用収益	32	127
うち最低保証リスクに対するヘッジ利益(A)	16	90
経常費用	2,181	2,800
うち責任準備金等繰入額	1,258	1,636
うち最低保証リスクに係る責任準備金繰入額(△は戻入)(B)	242	407
うち危険準備金繰入額(C)	12	22
うち資産運用費用	229	362
経常利益(△は損失)	△ 97	△ 241
当期純利益(△は損失)	△ 94	△ 243
当期純利益 - (A) + (B) + (C)	143	95

- 次に第一フロンティア生命の状況について説明します。
- 第一フロンティア生命では、変額年金市場が冷え込む中、定額年金のラインアップを拡充してきました。その結果、販売は改善し、第2四半期以降、保険料収入は前年同期比プラスで推移しています。第一フロンティア生命の12月末の保有契約高は1兆6,364億円に達しました。
- 一方、厳しい運用環境を受け、過去に販売した変額年金の最低保証に係る責任準備金繰入額が前年同期の242億円に対して407億円と高水準となりました。最低保証リスクに対するヘッジ利益90億円を計上したものの、経常損失は241億円と前年同期の97億円から拡大しました。また、当期純損失も前年同期の94億円から243億円に拡大しました。
- 参考として表の下段に、最低保証にかかる責任準備金繰入額やヘッジ損益等、市場変動要因を除く第一フロンティア生命の基礎的収益力といえる数値を掲載しています。
- 先ほど、7ページで基礎利益について説明した際も触れましたが、基礎的収益力が前年同期比でマイナスとなっているのは、販売水準が大きく変動しているために再保険収支が悪化したためです。

豪TAL収支の状況<sup>(1)</sup>

(百万豪ドル)

	10年4～12月 <sup>(2)</sup>	11年4～12月	前年同期比
経常収益	1,240	1,543	+24%
うち保険料等収入	988	1,217	+23%
経常利益	114	131	+15%
純利益(A)	64	86	+35%
修正額(B)	7	▲2	
うち負債割引率の変化	▲2	▲23	
うち償却負担	12	17	
修正利益=(A)+(B) (Underlying profit)	72	84	+17%

&lt;参考&gt;

	10/12末	11/3末	11/12末
為替レート(豪ドル)	83.13円	86.08円	79.12円

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値

(2) 試算値

14

- TAL社については、個人向けの保障性商品の好調に加え、2011年10月に獲得した大型団体保険契約の効果もあり、保険料等収入は現地通貨ベースで前年同期比23%増、経常収益も同24%増と高水準の伸びを維持しています。
- 一方で経常費用は増加しており、その原因として、TAL社の主力商品の一つである所得保障保険の保険金支払が増加していたことが挙げられます。この所得保障保険は、景気に連動して保険金の支払いが増えるというシクリカルな側面があります。
- これらの結果、経常利益は前年同期比15%増を達成しました。
- 第2四半期決算でもお伝えしたとおり、TALの損益は国際会計基準に基づき報告されており、金利の変動が利益に影響を与えるという特徴があります。この第3四半期末においては、金利が低下したことにより、純利益に対してプラスの効果がありました。このような金利変動の影響や無形固定資産の償却などを調整した、修正利益を表中の網掛け部分に示しています。このTALのコア利益といえる修正利益においても前年同期比17%増の84百万豪ドルを達成しました。

## 2012年3月期業績予想(期初予想から修正-1月31日)

- 第一生命、TAL社の保険料収入が増加したこと等から連結経常収益を上方修正。一方、繰延税金資産取り崩しに伴う利益押し下げにより、連結当期純利益は下方修正

(億円)

	11/3期	12/3期(予) (1月31日修正)	増減
<b>経常収益</b>	<b>45,715</b>	<b>47,800</b>	<b>+ 2,084</b>
第一生命単体	43,084	42,900	△ 184
第一フロンティア	2,538	3,700	+ 1,161
<b>経常利益</b>	<b>811</b>	<b>2,100</b>	<b>+ 1,288</b>
第一生命単体	789	2,300	+ 1,510
第一フロンティア	△ 11	△ 270	△ 258
<b>当期純利益</b>	<b>191</b>	<b>200</b>	<b>+ 8</b>
第一生命単体	169	170	+ 0
第一フロンティア <sup>(1)</sup>	△ 8	△ 243	△ 234
<b>1株当たり配当金</b>	<b>1,600円</b>	<b>1,600円</b>	<b>±0</b>

(参考)

基礎利益 (第一生命単体)	2,759	2,800程度
------------------	-------	---------

(1) 持分考慮後

- 第一生命グループの2012年3月期連結業績予想について説明します。
- 既に1月31日に、2012年3月期業績予想について、修正のお知らせをしていますが、これは、第一生命単体およびTAL社における保険料収入が増加する見込みであること等により、経常収益を上方修正する一方、法人税法改正に伴う繰延税金資産の取り崩しによる利益の下押しを見込むものです。尚、株主配当予想についての修正はございません。

■ 法人税減税の影響、新契約獲得による保有契約価値の増加により、9月末比で増加

第一生命グループのEEV(試算値)

(億円)

	11/9末	11/12末	増減
EEV	22,355	約23,000	約+700
修正純資産	15,959	約15,600	約△400
保有契約価値	6,395	約7,500	約+1,100

第一生命単体(試算値)

(億円)

	11/9末	11/12末	増減
EEV	23,072	約23,600	約+500
修正純資産	17,527	約17,100	約△400
保有契約価値	5,545	約6,500	約+900

第一フロンティア生命(試算値)

(億円)

	11/9末	11/12末	増減
EEV	1,235	約1,300	約+100
修正純資産	951	約900	約△0
保有契約価値	283	約300	約+100

(1) 2011年12月末の保有契約をベースとしています。

(2) 経済前提は2011年12月末、非経済前提は2011年9月末のものを用いています。また、保有契約価値の計算において、一部簡易な計算を実施しています。

※ なお、上記試算の妥当性について、第三者の検証は受けておりません。

16

- 2011年12月末の保有契約をベースに12月末の経済前提を使ったグループ・エンベディッド・バリューの試算を行っています。
- 2011年12月末のEVは修正純資産が約1兆5,600億円、保有契約価値が約7,500億円で、合計約2兆3,000億円となりました。2011年9月末に比べ、約700億円の増加となります。
- 保有契約価値は、法人税減税の影響や新契約獲得により、約1,100億円増加しました。
- 他方、修正純資産は、主として有価証券含み益の減少により、約400億円減少しました。
- 第一生命単体、第一フロンティア各社ともに、EVは増加しています。
- 17ページをご覧ください。

TAL(試算値)

(億円)

	11/9末	11/12末	増減
EEV	1,091	約1,300	約+200
修正純資産	496	約600	約+100
保有契約価値	595	約700	約+100

<参考>TAL(試算値、豪ドルベース)

(百万豪ドル)

	11/9末	11/12末	増減
EEV	1,452	約1,600	約+200
修正純資産	660	約800	約+100
保有契約価値	792	約800	約+100

11/9末EEV:

11/9末の為替レート(1豪ドル=75.17円)を使用

11/12末EEV:

11/12末の為替レート(1豪ドル=79.12円)を使用

(1) 2011年12月末の保有契約をベースとしています。

(2) 経済前提は2011年12月末、非経済前提は2011年9月末のものを用いています。また、保有契約価値の計算において、一部簡易な計算を実施しています。

※ なお、上記試算の妥当性について、第三者の検証は受けておりません。

- TALについては、左側に円ベース、右側に豪ドルベースで記載していますが、EVは順調に増加していることがわかります。
- なお、点線部分に記載の為替レートで円換算しています。
- 以上で私からの説明を終了させていただきます。

いちばん、人を考える会社になる。

**第一生命**

参考データ

# 第一生命

## 東日本大震災の影響

### ■ 東日本大震災による保険金等の支払見込額

**約152億円**

※安否確認活動により、当社の保有契約の状況が概ね判明。その内容を用いて支払見込額を算出

※12月末迄のお支払済みの金額は累計で137.9億円(うち、4月~12月累計は137.5億円)

なお、現在お支払い手続き中の金額も含めると、約146億円

### ■ 保険金お支払いに向けた努力

災害救助法適用地域<sup>(1)</sup>の当社のご契約(約86万件)のうち、99.99%(1月20日時点)の安否を確認



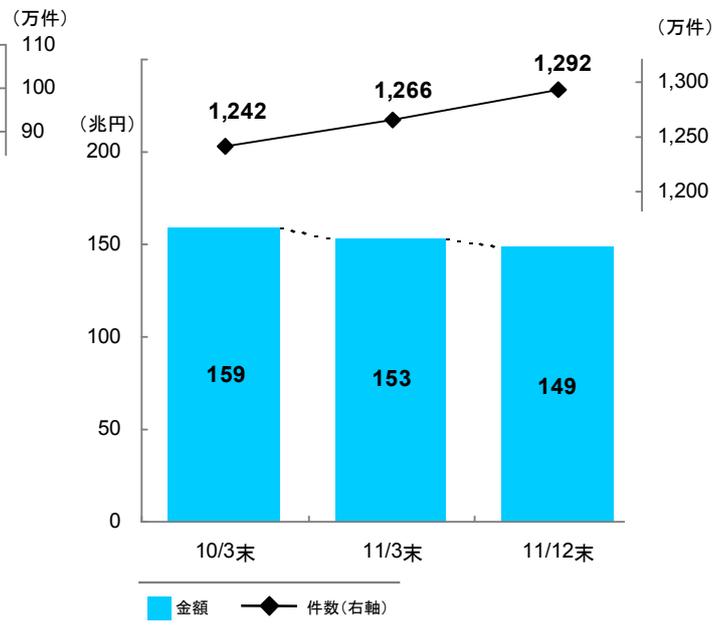
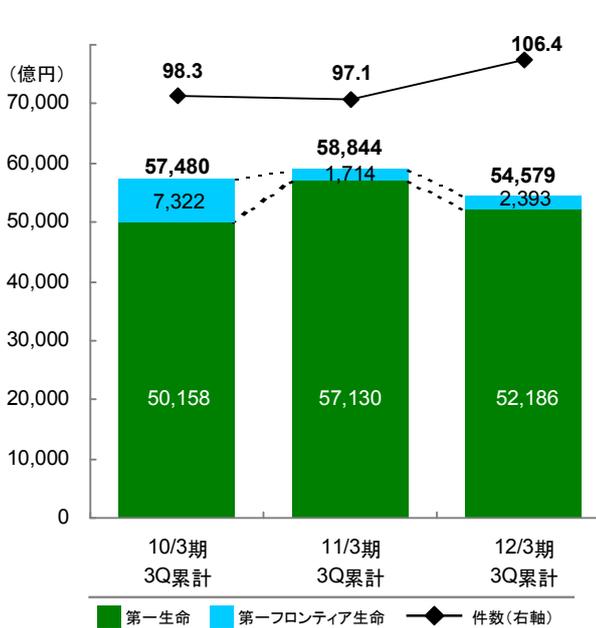
(1) 長野県北部地震の災害救助法適用地域を含む

**第一生命**

**契約高の動向(個人保険・個人年金保険)**

**新契約高<sup>(1)</sup>**

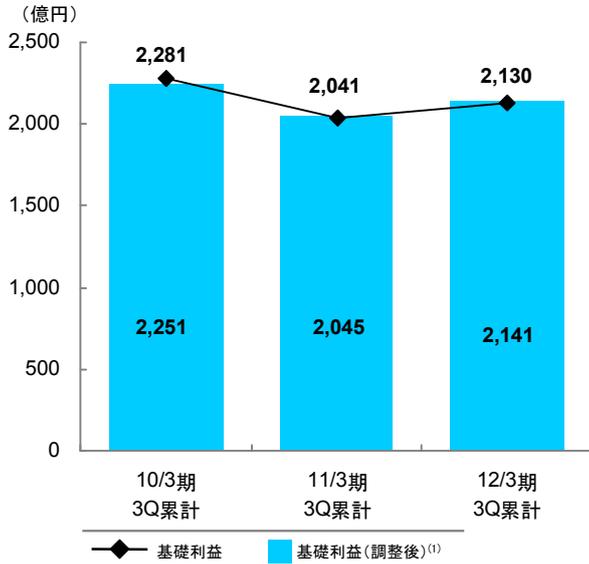
**保有契約高<sup>(1)</sup>**



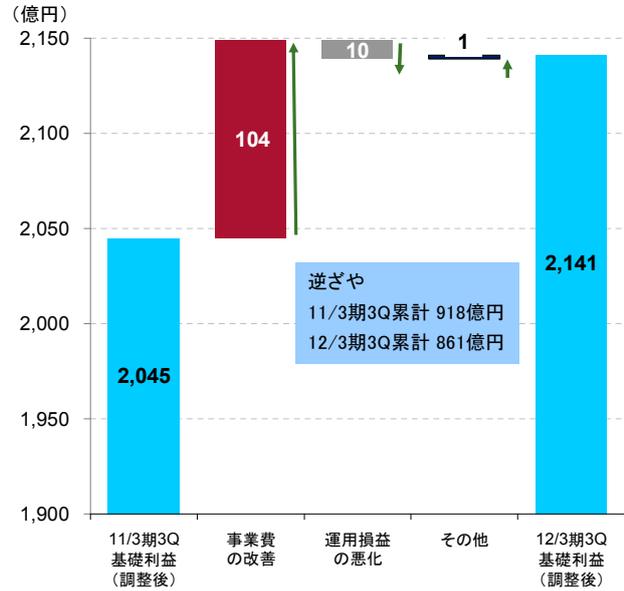
(1) 第一生命と第一フロンティア生命の合算ベース

**第一生命(単体)基礎利益**

**基礎利益**



**基礎利益(調整後)の変動要因<sup>(1)</sup>**



(1) 基礎利益(調整後) = 基礎利益 + 変額年金の最低保証リスクに係る責任準備金繰入額

## 第一生命

## 第一生命(単体)財務諸表

損益計算書(要約)<sup>(1)</sup>

	11/3期 3Q累計	12/3期 3Q累計	増減
経常収益	31,877	32,573	+696
保険料等収入	23,005	23,270	+264
資産運用収益	6,791	7,074	+282
うち利息・配当金等収入	5,013	5,023	+10
うち有価証券売却益	1,608	2,017	+408
うち金融派生商品収益	150	-	△150
その他経常収益	2,080	2,228	+148
経常費用	30,738	30,577	△161
うち保険金等支払金	18,646	18,343	△303
うち責任準備金等繰入額	3,021	2,318	△702
うち資産運用費用	2,713	3,663	+949
うち有価証券売却損	879	1,064	+185
うち有価証券評価損	691	830	+138
うち金融派生商品費用	-	54	+54
うち特別勘定資産運用損	416	890	+473
うち事業費	3,109	3,005	△104
経常利益	1,138	1,996	+857
特別利益	43	59	+15
特別損失	216	305	+88
契約者配当準備金繰入額	600	522	△77
税引前四半期純利益	366	1,227	+860
法人税等合計	141	1,163	+1,021
四半期純利益	224	63	△160

## 貸借対照表(要約)

(億円)

	11/3末	11/12末	増減
資産の部合計	308,696	308,296	△400
うち現預金・コール	4,671	4,417	△254
うち買入金銭債権	2,911	2,902	△8
うち有価証券	242,945	245,515	+2,570
うち貸付金	36,274	34,350	△1,923
うち有形固定資産	12,958	12,599	△359
うち繰延税金資産	4,751	4,033	△718
負債の部合計	301,032	300,924	△107
うち保険契約準備金	281,908	283,667	+1,758
うち責任準備金	275,895	278,142	+2,246
うち危険準備金	5,020	4,120	△900
うち退職給付引当金	4,183	4,377	+194
うち価格変動準備金	804	754	△50
純資産の部合計	7,664	7,371	△292
うち株主資本合計	5,928	6,017	+89
うち評価・換算差額等合計	1,736	1,352	△383
うちその他有価証券評価差額金	2,375	1,999	△376
うち土地再評価差額金	△651	△646	+5

(1) 特別勘定資産運用損は、責任準備金の戻入れで相殺されるため、経常利益に影響するものではありません

## 第一フロンティア生命財務諸表

## 損益計算書(要約)

(億円)

	11/3期 3Q累計	12/3期 3Q累計	増減
経常収益	2,083	2,558	+475
うち保険料等収入	2,051	2,429	+377
うち資産運用収益	32	127	+95
経常費用	2,181	2,800	+619
うち保険金等支払金	607	688	+80
うち責任準備金等繰入額	1,258	1,636	+377
うち資産運用費用	229	362	+133
うち事業費	79	106	+26
経常利益(△は損失)	△97	△241	△144
特別損益	2	△1	△4
税引前四半期純利益(△は損失)	△94	△243	△148
法人税等合計	0	0	+0
四半期純利益(△は損失)	△94	△243	△148

## 貸借対照表(要約)

(億円)

	11/3末	11/12末	増減
資産の部合計	15,667	17,127	+1,459
うち現預金・コール	239	171	△68
うち有価証券	14,554	16,062	+1,507
負債の部合計	14,500	16,195	+1,695
うち保険契約準備金	14,430	16,065	+1,634
うち責任準備金	14,419	16,056	+1,636
うち危険準備金	364	386	+22
純資産の部合計	1,167	931	△235
うち株主資本合計	1,153	909	△243
資本金	1,175	1,175	-
資本剰余金	675	675	-
利益剰余金	△696	△940	△243

**豪TAL財務諸表**

**損益計算書(要約)<sup>(1)</sup>**

(百万豪ドル)

	10年 4~12月 <sup>(2)</sup>	11年 4~12月	増減
経常収益	1,240	1,543	+302
保険料等収入	988	1,217	+229
資産運用収益	72	18	△54
その他経常収益	179	306	+127
経常費用	1,126	1,411	+285
保険金等支払金	661	826	+165
責任準備金等繰入額	118	134	+16
資産運用費用	15	61	+45
事業費	284	331	+47
その他経常費用	45	56	+11
経常利益	114	131	+17
特別損失	-	2	+2
法人税等	49	42	△7
純利益	64	86	+22
修正利益 (Underlying profit)	72	84	+12

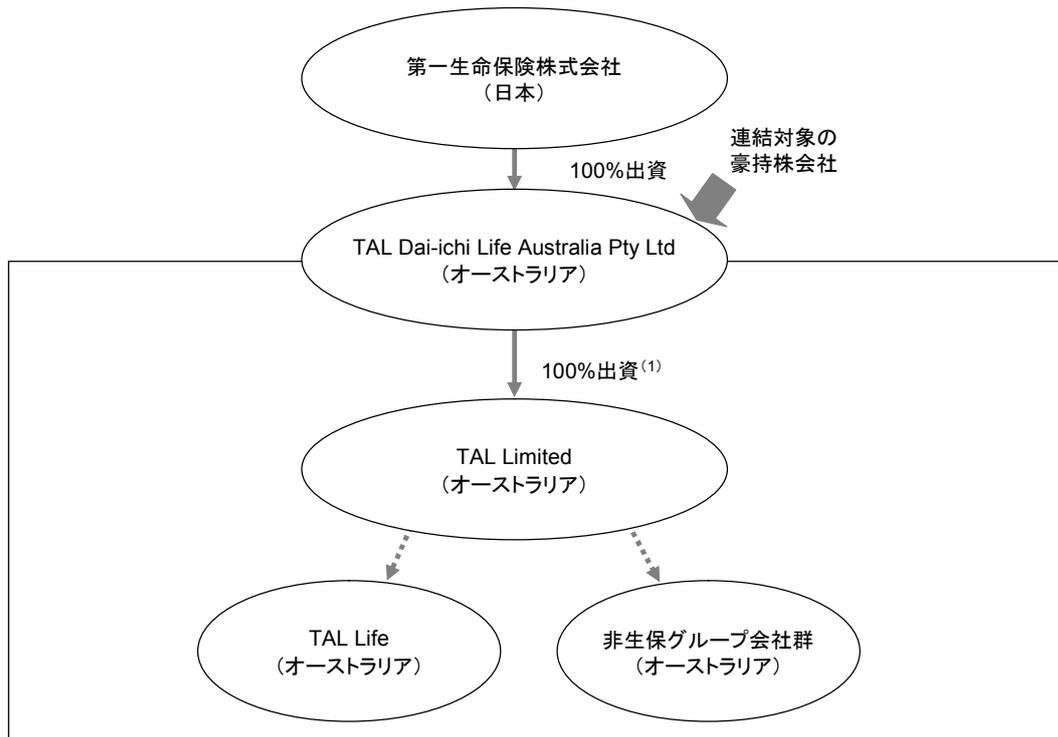
**貸借対照表(要約)<sup>(1)</sup>**

(百万豪ドル)

	11/4始	11/12末	増減
資産の部合計	4,989	4,993	+4
うち現金・預貯金	264	335	+70
うち有価証券	2,696	2,576	△119
うち無形固定資産	1,331	1,303	△27
うちのれん	785	783	△2
うちその他の無形固定資産	529	509	△19
うちその他資産	525	576	+51
負債の部合計	3,358	3,276	△82
保険契約準備金	2,384	2,233	△150
再保険借	173	191	+18
その他負債	612	663	+50
繰延税金負債	188	187	△0
純資産の部合計	1,630	1,717	+86
株主資本合計	1,630	1,717	+86
資本金	1,630	1,630	-
利益剰余金	-	86	+86

(1) 連結対象の豪持株会社(TAL Dai-ichi Life Australia Pty Ltd)に係る数値  
 (2) 試算値

### 豪TALに係る出資スキーム



(1) TAL Dai-ichi Life Group Pty Ltdを通じた100%出資

金融市場への感応度(2011年12月末)

	感応度 <sup>(1)(2)</sup>	含み損益ゼロ水準 <sup>(2)(3)</sup>
国内株式	日経平均株価 1,000円の変動で 2,100億円(2,200億円)の増減	日経平均株価 ¥8,100 (¥8,400)
国内債券	10年国債利回り 10bpの変動で 1,900億円(1,600億円)の増減	10年国債利回り 1.4% (1.5%)
外国証券	ドル/円 1円の変動で 220億円(200億円)の増減	ドル/円 \$1 = ¥86 (¥87)

(1) 各指標に対応する資産の時価総額の感応度

(2) ( )の数値は2011年3月末の水準

(3) 各指標に対応する資産の含み損益がゼロとなる水準。外国証券はドル円換算にて算出した、為替要因のみの含み損益がゼロになる水準

## 本資料の問い合わせ先

第一生命保険株式会社  
経営企画部 IR室  
電話:050-3780-6930

## 免責事項

本プレゼンテーション資料の作成にあたり、第一生命保険株式会社(以下「当社」という。)は当社が入手可能なあらゆる情報の正確性や完全性に依拠し、それを前提としていますが、その正確性または完全性について、当社は何ら表明または保証するものではありません。本プレゼンテーション資料に記載された情報は、事前に通知することなく変更されることがあります。本プレゼンテーション資料およびその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が公開または利用することはできません。

将来の業績に関して本プレゼンテーション資料に記載された記述は、将来予想に関する記述です。将来予想に関する記述には、これに限りませんが「信じる」、「予想する」、「計画」、「戦略」、「期待する」、「予想する」、「予測する」または「可能性」や将来の事業活動、業績、出来事や状況を説明するその他類似した表現を含みます。将来予想に関する記述は、現在入手可能な情報をもとにした当社の経営陣の判断に基づいています。そのため、これらの将来に関する記述は、様々なリスクや不確定要素に左右され、実際の業績は将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に依拠することのないようご注意ください。新たな情報、将来の出来事やその他の発見に照らして、将来予想に関する記述を変更または訂正する一切の義務を当社は負いません。